

とどろき おおのほらちく 轟・大野原地区コミュニティ

盛夏の候、蒸し暑い日が続いておりますがいかがお過ごしでしょうか。湿度が高いと思っていたら、自宅玄関の革靴にカビが生え、コミュニティに着けば調理室の竹製しゃもじにもカビ！果ては収納式畳にまで・・・！！昨年も畳の虫干しはしましたが、ここまでひどくはありませんでした。汗をかきかき12畳を立てかけての拭き上げ作業は、6日の大雨以降すでに3回目です。カラッと晴れて仕舞える時期を待っております。皆様のお宅の湿気は大丈夫でしょうか？



今月のお花 その1



き きょう
桔 梗

花言葉：紫・・気品

白・・清楚

日本で古くから愛され、武士の家紋や、根は生薬として使われてきました。風船のようなつぼみの形から、英語では Balloon flower と呼ばれています。

みたび7月豪雨

7月6日、今年も大変な豪雨に見舞われました。連日、嬉野市・東彼杵町・大村市といった聞き慣れた地名が全国放送で流れました。

平成30年のちょうど同じく7月6日にも、国道34号線が川のようになった記憶がよみがえります。翌、令和元年は大町町や武雄市の水害が記憶に新しいところです。梅雨



下岩屋三区 濁流に浸かる遊歩道の橋

は農業や暮らしに欠かせない時期だとわかってはいても、一度の雨量が多すぎます。3年連続の異変はもはや異変ではなく、今後そういう心積りで梅雨前線や海上の水蒸気の変化に対応しなければならないでしょう。



井手川内地区土砂災害（嬉野小校区）

一方でコロナウィルス第2波も影を色濃くしてきました。次から次へと気がかりが尽きません。そんな中でもコミュニティの役員を務める12名の区長さんは、各区の土砂災害等の現場を把握・報告し、さらに夏の伝統、燈籠祭や風日浮立・敬老祝賀会・地区大運動会の開催についても区内・区外の意見も集め、検討を重ねられています。区を預かる責任感の強さに感じ入り、頭が下がる思いです。

区長さんや区民の皆様が安心して集うことができる、穏やかな日常が送れるよう願ってやみません。

雨にもコロナにも負けず！朝市頑張っています

4・5月に中止していたガレージ朝市が6月・7月と無事に開催できました。長雨で野菜も少ない中、出店者の方々は収穫や包装を一生懸命頑張って朝市を支えて下さっています。また早朝からお買い物にお



いで下さる皆様ありがとうございます。8月はお休みで、次回は9月13日です。朝7時にお待ちしています。



轟小サマースクール



夏休みに入った7/27(月)~29

(水) 恒例のサマースクールが実施され、今日は2日目です。復習のプリントをOBや地域の有志の方が添削します。毎朝、丁寧に宮崎校長先生をご挨拶して下さいませ。6年生のクラスではOBの三根先生が本領発揮「もっときれいに書かんか!」厳しい言葉も愛情の証、子供達もクスクス。また1年生は34名と大所帯で、二ヶ所に分かれた一つを担当された区長さんも「忙しかった」とのご感想でした。1+3は4、と言う具合に指折り数えてご指導下さるため長蛇の列になるそうです。私が休み時間に1年生の教室に行くと「誰ちゃんの母さん??」と女子に囲まれ嬉しい悲鳴でした。子供の6年間は成長の縮図ですね。地域の皆様ご参加・ご指導ありがとうございます。

事務局だより 7月号

今月のお花 その2



ごだちせい 木立性ベゴニア

(テリーナエレガンス)

花言葉：片思い、愛の告白
 ブラジル原産、シュウカイドウ科、花期は4月~10月。ちなみに唐津市浜玉にある「ボンポコ村ベゴニアガーデン」は窓辺のテーブル越しに玄海灘を望める癒しの植物園。日陰の園内ではベゴニアの好む環境を肌で感じ取れ、栽培の参考になります。

6月26日、リパティで「新型コロナウイルス感染症対策を考慮した避難所運営」講習が行われました。

ダンボールをガムテープで止めて生活空間を作っています。切込み入りダンボールを使えば垂直に組むことで自立し、今より作業人数とテープ止めの手間や時間を削減できそうです。他にも防護服の脱着、表示徹底など多くの内容がありました。お疲れ様です。



すてきな

であい (第2回)

下岩屋区にお住まいの宮崎博子さんが仲間とのお花見会のために会議室の予約



に来て下さり、しばらく会話に花が咲いたのですが・・・やがて衝撃の展開に言葉を飲みました。「大病したけど手術して元気なのよ。定期検査で転移していないのがわかればホッとするの。ただ薬の副作用でね・・・、そうね、なんと言うのかしらねえ・・・元気なのよ。だけど

う～ん、フワフワするって?そういうのとも違って・・・ふふ、あなたにはわからないでしょ?ま

あ、遠出は気乗りしないけど、ここなら近いし桜もあるし、ワイワイ言いながらお弁当食べてお互い1年に1回くらいは安否確認も兼ねて集まらないとね、って。私はそのお世話役」

* * *

病気に驚き、手術の成功は手放しの喜びを得るものだと思っていた無学を恥じると同時に、宮崎さんの生きる姿勢に感銘を受けました。動きたくない日もあるだろうに、静かに体調を受入れながら出来ることをする。華やかに、楽しそうに。



「お話を書かせて頂いていいですか?励みになる人がいると思います!」・・・恐る恐る、しかし必死に乞う私に「たいしたことしてないわよ」にこやかにOKをくださいました。居てくれるだけで何かを教えてくれる人、とても すてきなであい でした。 完